

齋藤興司様を偲んで

齋藤興司様が昨年12月13日に亡くなられました。享年82歳でした。数年前から体調を崩されていましたが、死因は慢性呼吸不全でした。奥様によると、最後は苦しめることもなく息を引き取られたとのことでした。

齋藤様は、小生も勤めた旭硝子に昭和40年に入社され、多くのプロセス開発を経験されました。なかでも、「IM 法食塩電解プロジェクト」の一員としてパイロット電解設備の解析を進められたほか、「フッ素化学品の合成試作事業」に於いてはキーマンとして活躍される傍ら、中国南京にも頻繁に技術指導に行っておられました。退社後、SCE・Netに2009年に入会され、2014-2018年には環境研究会の担当幹事を務められました。誠実なお人柄と簡潔明瞭な話しぶりは、会員の皆様から篤い信頼を得られておりました。特に縁の深かった中国の環境問題については強い関心を持たれ、中国語の定期行物を取り寄せ、独力で翻訳され、定期的に情報提供の形で、法人会員へ発信して頂きました。

齋藤様のご尽力に深く感謝いたすとともに、謹んでご冥福をお祈りいたします。合掌。

2025年1月 SCE・Net 代表 中尾 眞。

以下に会員の皆様から寄せられたお悔やみの言葉を添えます。

1) 原戸様（環境研究会の後任幹事）

先月から、鹿子島さんからお送りいただいた環境研究会メンバー宛のメールに返信すると齋藤さんの分が届かずに帰ってくる通知がありました。ひょっとして…と案じていました。非常に温厚で、信念の方でした。私が SCE・Net/環境研究会に入会させていただいた時には「中国の環境問題」に焦点を当てられ、ご自分で中国の環境関連雑誌を三種類購入され、それを翻訳されながら、日本の国内企業が中国に進出する時の参考になるようにと、中国の環境問題の現状と、日本で解決してきた技術を加えて定期的に報告書を作成なさっていました。Discussion の部では環境研究会メンバーの意見を入れながら作成なさっていました（私はただ議論の組み立てのうまさなどに感服して試みているだけで、ほとんどお役に立てなかったのですが）。この辺の状況は私より、河合さんや溝口さん、長安さんの方がよくご存じかと思います。体調をお崩しになってから、環境研究会を辞めるとのお話しには残っていただき、ネットで見て頂くだけでも…と言ってお願いしました。快く聞き入れてくださって、時には覗いてくださったようです。静かな方でしたから、ご意見があまりでも皆に任せたのだから…と。それでも、齋藤さんお一人（とも思われる時期）から現在の10名を超えるメンバーでお喜びだったように思います。齋藤さんのご遺志を心

に、今後、研究会を盛り上げていくお役に立たねば…と思う次第です。

齋藤さんのご冥福をお祈り申し上げます。

合掌

2) 原 晋一様（環境研究会メンバー）

齋藤様逝去の件、ご連絡ありがとうございます。小生が、エネ研の幹事をやっていたころ、齋藤様から、小生が一度訪問したことの有った、中国山東省の勝利原油を処理していた製油所からの日本訪問情報と講演会参加のお誘いを頂き、その時齋藤さんと懇談させていただきました。優しい人だなとその時感じました。また、20周年記念企画では、SEC・Net からの本の出版とか、各研究会 20 周年史作成に関する意見調整をさせていただきました。ご冥福をお祈りいたします。

3) 溝口 様（環境研究会メンバー）

齋藤さんが亡くなられたとのことを誠に残念に思います。私が事務局担当幹事でありました頃 SCE・Net に入会されました（2008 年）。東大化学工学科を 1965 年に卒業されています。旭硝子に長年勤務されています。定年近くには中国の関連工場に勤められ 50 数回も中国に出張されたとのことでした。入会されて間もなく VOC の現場調査の依頼案件が関連協会からありました際、会員からは対応者が無く直接お願いしたところ快く引き受けていただき、その後も同協会の仕事を引き続き受けられています。齋藤さんの誠実なお仕事ぶりがうかがわれました。環境研の幹事になられ、テーマを何にするか協議しました。中国の学術誌を選び発展する中国の環境技術を調査してみましようということになり、自費で 3 冊の学術誌を購入されました。その中から数編の論文を翻訳され会員に配布され、コメントを求められ、更に座談会方式で論文の内容、解説を報文にまとめています。この報文は 2~3 回/年発行され、中国に関連する法人会員、関係者にも配布されています。SCE・Net 入会時には中国語は挨拶程度と言われていましたが論文の翻訳の素晴らしさには私は本当に感服いたしました。正確で緻密な報文にも齋藤さんの誠実なお気持ちがうかがわれるように思っております。中国委員会の中国懇話会でも講演されています。その後の懇親会では夜遅くまで付き合っておられました。優しさもお持ちでした。深く哀悼の意を表したいと思います。

4) 河合様（環境研究会メンバー）

齋藤さんのご冥福をお祈り致します。私的雑用のため思い出を綴るのが遅れて申し訳ありません。

*齋藤さんの趣味は合唱系のサークルとテニスでした。前者のサークルには研究室の先輩

もおられ、斎藤さんの話題もでました。テニスはいつか教えて頂きたいと願っていましたが機会を得られませんでした。

* 斎藤さんの研究室時代の専攻は物質移動と伺っていますが反応工学にも関心が深く「反応工学は何と言っても Levenspiel だと言われていました」。

* 小生のマイテーマの話を出したとき当初は「反応器の設計の速度式は適当に仮定していたが」と怪訝な顔でしたがすぐに意図を理解して頂き「それが達成できれば文句なしだが」と危ぶむ様子でした。その延長の特許を出願したとき「ご苦労さまでした」とのメールをもらいました。それで終わりではなくもっと体系化しての本の出版を観て頂きたかった、あまりにもマイペースでのんびりだったと悔やんでいます。

* 斎藤さんの研究会の運営は幹事会の方針に縛られ過ぎていたように感じました。「共通したテーマに沿って活動し、成果を外部発表せねばならない」です。このため斎藤さんは「中国の環境とその技術の動向についてのシニアエンジニアの解析と感想」との共通テーマを設定し、会員にコメントを求め、座談会形式での解析と感想をまとめていました。

* 当時は環境経営研究会が新発足し郷さんの主軸がそちらに移り、原戸さんも長期にブラジル出張中で検討会参加者は斎藤さん、溝口さん、小生の3人のみの状態が続きました。環境経営研究会と合併するまでの時期を支えられました。

* 斎藤さんは見事な構成力で座談会形式での検討結果をまとめ、各所に配布し続けました。小生は反応関係の論文にしかコメントを出せませんでした。他は殆どスルーでした。ときどき斎藤さんから今回の何号は反応関係なのでコメントをとメールがありました。もう少しお役に立てれば良かったと悔やんでいます。 合掌

5) 川瀬 健夫様 (前代表幹事)

訃報のご連絡拝見いたしました。環境研究会の活動を地道に支えておられた姿を思い出します。数年間の幹事会を通じてのお付き合いでしたが、人柄が強く印象に残っています。斎藤さんのご冥福をお祈り申し上げます。

6) 飯濱 慶様

斎藤様とは「若い技術者のためのプロセス安全入門」の翻訳の際、同じ小グループにて作業をご一緒させて頂き、暖かいお人柄に接すると同時に、様々なアイデアを頂きました。斎藤様の穏やかな笑顔が印象に残っています。心よりご冥福をお祈り致します。

環境研究会のメンバーと (SCE・Net 20年史、2019年撮影) より



斎藤様が纏められた中国環境科学技術情報サービス（20年史より抜粋）

本活動の基本的理念は、「環境保全技術を通じた企業の現場管理への応援・サポート」である。中国の環境保護技術に着目した理由は、以下の3点である。

- ① 中国の環境保全技術は日本ではほとんど知る機会がなく紹介する価値がある、
- ② 中国に製造拠点を有する日本の化学企業が年々増加している、
- ③ 日本では環境保全技術の研究はごく一部の大学の研究室を除いてはすでに終わったものと思われる。日本で開発された技術はレベルの高いものであるが、中国では今なお多くの研究者が国情に合った技術の開発に取り組んでおり、新たな知見を採り入れた技術も開発されつつある。

本活動を研究会のテーマとするにあたっては二つの問題があった。その一つは著作権の問題で、もう一つは中国の技術に関心のないメンバーに如何に参加してもらうか、であった。どちらも結論は出ないままであったが、活動を開始し対応を模索しながらレポート発行を継続することとなった。

著作権に関しては中島名誉顧問の紹介による弁護士をはじめ数名の専門家の意見を聞いたが、簡単な抄訳でも著作権に抵触するとのことで、本活動の成果を一般に公開することは断念した。論文の内容・要旨はメンバーによる討議の中での発言という形で伝えるように工夫したが読者にとって理解しにくかったであろうことは否めない。誤算もあった。研究会のメンバーのほとんどは工場の現場経験はあったが、工場の廃水処理や大気汚染防止等の環境保全管理に携わった経験者はほとんどいなかった。翻訳した論文は話題を提供するだけで、討議の内容はシニアエンジニアの知識・経験を活かした技術の評価をするのが本来の狙いであったが、意見が出ず議論が一方的になったことも多い。

現在中国では30誌以上の環境保護に関する科学技術雑誌・論文誌が発行されており、日本でも購読できる。本情報サービスで選択した論文の掲載誌は以下の通りである。(カッコ内は編集責任団体)

化工环保* (中国化工环保协会他)、*环境污染与防治* (浙江省环保科学设计研究院)、*安全与环境学报* (北京理工大学)、*环境工程技术学报* (中国环境科学研究院)、*环境工程* (中国环境科学学会环境工程分会)、*污染防治技术* (江苏省环境科学学会他)

掲載論文の内容が当初予想に反して企業の現場に活かすという目的に合わなくなるという状況も見られ、上表のように時々見直しを行って論文誌を一部入れ替えた。論文の選択と和訳はメンバーの一人が担当し、和訳文を各メンバーに送ってその内容を共有した。レポートは論文の抄訳と各人からの感想・コメントをもとにした談話会方式の技術評価に編集するスタイルでとりまとめた。

本活動の成果として2012年No.1から2019年No.1まで計20報のレポートを発行した。

斎藤様が翻訳紹介された中国環境問題に関する論文

発行番号	特集テーマ	紹介論文数
2012. No. 1	生物難分解性工場廃水の処理	8 報
2012. No. 2	揮発性有機化合物 (VOCs) の浄化対策	6 報
2012. No. 3	生物難分解性廃水処理—Fenton 法の展開その他	7 報
2013. No. 1	廃水の生物処理 (嫌気処理、好気処理、培養)	6 報
2013. No. 2	鉄の反応を利用した廃水処理	6 報
2013. No. 3	都市の大気環境の汚染対策 (悪臭、VOCs、PM2.5)	7 報
2013. No. 4	業種別の特色のある廃水処理研究	6 報
2014. No. 1	中国の大気汚染対策 (石炭燃焼と脱硫脱硝技術)	6 報
2014. No. 2	微生物を利用した大気汚染 (VOCs 及び悪臭) 防止技術	6 報
2015. No. 1	工業廃水の高度処理と廃水のオゾン酸化処理技術	7 報
2015. No. 2	水処理分野における膜技術の応用	6 報
2015. No. 3	中国の土壌汚染修復技術	9 報
2015. No. 4	鉄の反応を利用した廃水処理技術の進歩	7 報
2016. No. 1	高度酸化 (促進酸化) 技術の廃水処理への応用の進歩	6 報
2016. No. 2	” 清洁生产 ” (クリーン生産) の展開例	5 報
2017. No. 1	中国の製薬産業廃水の処理	6 報
2017. No. 2	鉄を利用した工業廃水処理プロセスの進歩	7 報
2018. 特別号	中国の環境規制強化の現状と日本企業への影響	—
2018. No. 1	廃水の嫌気性微生物処理をめぐる最近の話題	7 報
2019. No. 1	最近の製薬および農薬製造廃水等の処理技術	7 報
累計 20 号		計 125 報

これらのレポートは SCE・Net の各幹事から法人会員各社に送られている。また、研究会メンバーの出身企業や技術懇談会への出席者等、合わせて約 40 社 (人) に提供され、中国での事業展開に関心のある数社からは好評価をいただいた。残念ながら著作権の問題がクリアできていないため SCE・Net の HP も含めて一般公開ができず、研究会活動の本来のあり方からは問題を残した。ただ、環境保護分野において企業活動を応援・サポートするという基本的スタンスで研究会活動を行い、シニアエンジニアの技術知識と経験を活かすという試みの一つとしてはそれなりに意義があったと考える。